

TSUDA TODAY

No. 129

津田塾大学

November 2023



次期学長決定のお知らせ

学校法人津田塾大学理事会は、高橋裕子氏（現学長）を次期学長に選任（再任）することを決定いたしました。

高橋学長の任期が2024年3月31日に満了することに伴い、本年7月から理事会の下に学長選考委員会が設置され、学長候補者の選考が行われてきました。

9月8日に行われた第3回学長選考委員会にて、現学長の高橋裕子

氏を学長候補者として決定し、理事会に推薦しました。

9月15日の理事会で審議の後、同日、開催された評議員会に諮問を経た後、9月22日に理事会は高橋裕子氏を次期学長に選任（再任）することを正式決定しました。

高橋裕子氏の学長の任期は、2024年4月1日から4年間です。

■略歴

1980年3月津田塾大学学芸学部英文学科卒業。1983年10月米・カンザス大学大学院歴史学研究科 M.A. 1984年3月筑波大学大学院修士課程地域研究研究科修了。国際学修士。1989年10月米・カンザス大学大学院教育学研究科 Ph.D. 桜美林大学国際学部専任講師・助教授を経て、1997年4月津田塾大学学芸学部英文学科助教授、2004年10月津田塾大学学芸学部英文学科教授、2016年4月より学長、学校法人津田塾大学常務理事。専門は、アメリカ社会史（家族・女性・教育）、ジェンダー論。著書に『津田梅子の社会史』（玉川大学出版部、2002年、アメリカ学会清水博賞）、『津田梅子 女子教育を拓く』（岩波ジュニア新書、2022年）等。



Mount Holyoke College 学長就任式参加について

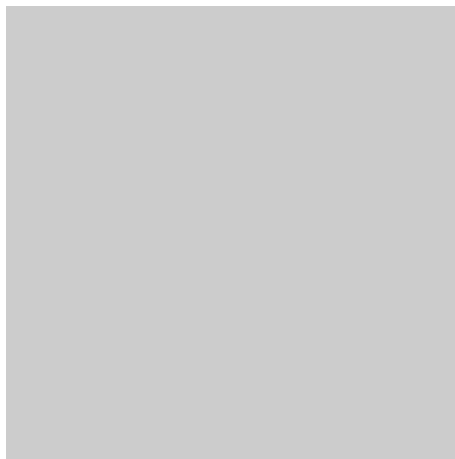
▶国際センター事務局 小野 萌子

2023年9月20日、21日に Mount Holyoke College (South Hadley, MA, USA) で開催された学長就任式及び関連イベントに、高橋裕子学長に随行して参加しました。Mount Holyoke College は、1837年に創立した全米初の女子大学で、セブンスターズと呼ばれるアメリカの名門大学の1つです。本学の創立者である津田梅子が1889年から留学したプリンマー大学もセブンスターズの1つです。

新学長就任イベントでは、“Archives Exhibition: Collectivity, Community, Change: Black History at Mount Holyoke”と題された展示を鑑賞し、“When and Where I Enter: Reflections on Black Women’s Sojourns from Hortense Parker to Danielle R. Holley”の題目で行われた、1973年から2014年の卒業生4名の学生時代や現在の活躍についてのパネルディスカッションを拝聴しました。

学長就任式には、アメリカと日本から招待された65大学の代表者が、大学の設立年順に入場しました。日本からは本学のほか、東京女子大学森本あんり学長、日本女子大学篠原聡子学長が出席され、日本の3女子大学学長が一堂に会しました。式典では、アメリカの他大学の学長や卒業生たちがお祝いのご挨拶をし、Danielle R. Holley 新学長がスピーチされ、大学全体が祝福ムードで盛り上がりしました。新学長は、Mount Holyoke College の20代目学長として、また、186年の歴史において初の黒人女性学長として、非常に期待されています。

現在 Mount Holyoke College は、性別の多様性を尊重し、女性、トランスジェンダー、ノンバイナリーの学生の入学を歓迎する女子大学であり、リベラルアーツ教育を牽引するリーダーとしての役割を担っています。多様な女性のあり方を尊重することを基本方針とし、2025年度入試より女子大学で学ぶことを希望するトランスジェンダー学生（性自認による女性）に受験資格を認めることとした本学の一職員として、引き続き注目していきたいです。



Mount Holyoke College 正門



（右から）高橋裕子学長、篠原聡子学長、
Danielle R. Holley 学長、森本あんり学長



Mount Holyoke College の卒業生（右2人）とともに

2023 年度津田梅子記念会 & ホームカミングデー開催報告

▶ 津田塾大学同窓会副会長・学芸学部 国際関係学科 教授 渡邊 あや

10月8日(日)、小平キャンパスにおいて、津田梅子記念会 & ホームカミングデーが開催されました。

午前の部では、遠藤勝信氏(東京女子大学教授)を説教者にお招きした津田梅子記念礼拝が、小野創本学教授の司会、吉朝加奈氏(東邦大学准教授)の奏楽のもと執り行われました。続いて、第23回高校生エッセー・コンテスト表彰式では、「私たちはなぜ学ぶのか」という問いについて津田梅子のスピーチを手がかりに論じるというテーマに対し、英語作品179編、日本語作品187編が寄せられたこと、最優秀賞1名、優秀賞4名が選出されたことが報告され、表彰と最優秀作品の朗読が行われました。さらに、津田梅子賞に選出されたITエヴァンジェリスト、若宮正子氏に対する贈賞式が開催されました。

午後の部では、創立120周年記念特別対談「村木厚子が語る『変革を担う、女性であること』」として、本学の客員教授である村木厚子氏が、高橋学長を聞き手に、困難に直面してもなお、前向きな姿勢で人生を切り拓いてきたその生きざまをお話しくださしました。

なお当日は、各周年同期会(20年、23年、40年、50年、70年)、「女性初の外交官 山根敏子」展、津田梅子資料室企画展「津田梅子の小袖修復プロジェクト～完了報告～」及び常設展「津田梅子の生涯」～関東大震災100年～、「Let's 国際交流」、多文化・国際協力学科のラ

ウンドテーブルなども開催されました。

5年ぶりに通常開催となった記念会 & ホームカミングデー。来年もまたこうして皆が集えるよう願うばかりです。



飯野正子同窓会会長による挨拶

津田梅子記念礼拝 要約「愛の心(利他の精神)を育む」

フィリピの信徒への手紙 第1章9節～11節(新共同訳聖書)

▶ 説教：遠藤 勝信氏(東京女子大学教授)

建学の精神に立ち返ることは大切なことです。創立者がどのような人材を育成し、社会に貢献していくべきかを表し、将来の方向性を指し示しているからです。学則の第1条にある「キリスト教精神」が何を意味しているかを考えると、スピリットであるがゆえに言語化して一つの概念に限定することを避け、生き方を通して、教職員から学生へ、学生から後輩へ、社会へと受け継がれていくべき宝であることがわかります。そのスピリットを表す津田梅子先生が書き残した3つの大切な言葉を紹介します。「・・・イエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい」(聖書)、「広く深く献身的に愛することを学べば、人生を失敗することはありません」、「私の信仰はとても弱いものです。でも、もっと強い信仰、良き生活、特に心が愛と同情に満ち、必要とする人たちに注がれることを願ってやみません」。不完全な人間が神によって愛を育まれる生き方こそ、津田先生が願われたキリスト教精神に則る人格形成を意味したのではないかと思います。



大学院国際関係学研究科の博士学位授与式

国際関係学研究科の博士の学位が次のとおり授与されました。なお、授与式は2023年7月14日に举行されました。

真嶋 麻子

- 現 職：日本大学国際関係学部国際総合政策学科 助教
- 学位授与日：2023年4月12日
- 学位の番号：博士乙第29号
- 学位の種類：博士(国際関係学)
- 論文題目：現地化政策の制度化と運用にみる国際機構と途上国との関係性のダイナミズム——ラテンアメリカ地域における国連開発計画(UNDP)の実践から——



左から真嶋麻子氏、高橋裕子学長

2023年度 津田梅子賞 選考結果報告

2010年、津田塾大学創立110周年を記念して創設した「津田梅子賞」も、今年で13回目を迎えました。本賞は、津田梅子のパイオニア精神にちなみ、女性の未来をひらく可能性への挑戦を顕彰することを目的とします。

●選考対象

以下の1.または2.に該当する個人/団体で、現代社会に顕著な影響を与えた方

1. 女性の可能性を広げる取り組みを行う個人または団体・組織（性別を問いません）
2. さまざまな分野で先駆的な活動を展開した女性

2023年度は選考の結果、次の方に決定し、10月8日（日）津田塾大学において贈賞式が執り行われました。

受賞者 ^{わかみや まさこ} 若宮 正子氏（ITエバンジェリスト）

1935年、東京都出身。1954年、東京教育大学附属高等学校を卒業後、三菱銀行（現・三菱UFJ銀行）に勤務。当時、女性としては珍しい管理職に就任し、定年時には関連会社の副部長にまで昇進した。

58歳から当時普及し始めていたパソコンを独学で習得。

2017年には81歳でスマートフォン向けアプリ「hinadan」を開発し、「世界最高齢のアプリ開発者」として世界で話題となる。同年にアップル社が開催した世界開発者会議「WWDC2017」に招かれた。エクセルアートの創始者としても知られている。

2018年には国際連合社会開発委員会で「高齢化社会とデジタル技術の活用」をテーマに英語で基調講演を行う。また、内閣府が主催した「人生100年時代構想会議」にも82歳の最年長メンバーとして参加。2021年にはデジタル庁デジタル社会構想会議構成員に就任した。現在は「岸田首相主催・デジタル田園都市国家構想実現会議構成員」。

88歳の現在、全国各地での講演会活動を積極的に行っている。講演会のアンケートでは、「元気をもらった」「いくつになっても人は成長できると思った」など、聴衆を勇気づける内容となっている。

このようなグローバルなシニア世代のITエバンジェリストとしての活躍もさることながら、当時では珍しいとされた金融界での女性管理職に就任した実績や、女性のライフコースの中から独学でデジタル分野を切り拓いたことから明らかなように、年齢や性別を理由に限界を決めることなく、常に好奇心を持って新しいことに挑戦するマインドは評価に値する。

よって、氏はシニア世代のロールモデルとしてだけでなく人生100年時代を生きるすべての人への影響は大きいため、女性の可能性を広げる取り組みを行い、先駆的な活動を展開した女性を顕彰する津田梅子賞に相応しいと考える。



津田梅子賞受賞者の若宮 正子氏

●贈賞式でのスピーチ

若宮氏の贈賞式でのスピーチは、大学公式webサイトに掲載しています。ぜひご覧ください。



<https://www.tsuda.ac.jp/aboutus/umeko-award/list/2023result.html>

第23回 高校生エッセー・コンテスト 結果発表

10月8日、津田梅子記念会&ホームカミングデーにおいて第23回高校生エッセー・コンテストの選考結果発表会が執り行われました。

当日は最優秀の浄慶 菜さんが受賞作品を朗読しました。

応募作品366編（内訳：英語作品179編、日本語作品187編）

選考の結果、次の方が最優秀賞・優秀賞に選ばれました。

- | | | | |
|-----------|--------|----------------------------------|----------|
| ●最優秀賞（1名） | 浄慶 菜 | 立命館守山高等学校（滋賀県） | 2年生（日本語） |
| ●優秀賞（4名） | 藤井 彩蘭 | International School Manila（マニラ） | 2年生（英語） |
| | 中川 りよら | セントヨゼフ女子学園高等学校（三重県） | 1年生（英語） |
| | 多田 健一 | 国際基督教大学高等学校（東京都） | 3年生（英語） |
| | 吉本 芽唯 | 聖和学院高等学校（神奈川県） | 1年生（日本語） |



最優秀賞受賞者の浄慶 菜さんと高橋裕子学長、ライティングセンターの教員

●受賞作品

優秀賞受賞者の作品は、大学公式webサイトに掲載しています。ぜひご覧ください。



<https://www.tsuda.ac.jp/aboutus/essay/2023result.html>

講 評

▶ 2023年度高校生エッセー・コンテスト審査委員長・ライティングセンター長（総合政策学部教授） 大島 美穂

高校生エッセー・コンテストは、津田塾大学創立100周年を記念して2000年に始まり、今年で23回目となりました。今回は2024年に新5千円札の顔となる津田梅子が、1908年第6回女子英学塾（津田塾大学の前身）卒業式で読んだ英語の式辞を題材にしました。

梅子が日本で最初の私立女子高等教育機関である女子英学塾を作ったのは、35歳の時、最初の入学生はわずか10名でした。その後8年を経て、卒業生は増えていきましたが、当時の日本は家父長制の下で「良妻賢母」を育成する教育が中心であり、女性は、大学にも、旧制高等学校にも入学を許されていませんでした。

小さな学び舎で学んできた卒業生に対して、塾での真摯な勉学を労い、逆風の吹く社会に旅立つ覚悟を説く梅子の言葉には、自己利益のためだけ

に働くのではなく、社会に貢献し、社会を変えてほしいという願いが込められています。そして、100年以上経った今でも、戦争や貧困、病気などにより、学ぶ機会を奪われ、差別の下に置かれる人はたくさんいます。梅子のスピーチを通して、なぜ学ぶのかを考えてほしいというのが課題でした。

今回は国内外から366件の応募がありました（日本語187件、英語179件）。

最優秀賞の浄慶さんの作品は、曾祖父の火葬の際に残った黒い弾丸を手にし「その背景にあるものを知らなければならない」と感じた経験を、学びとは能動的で実践的であるべきだという梅子の言葉に結びつけて考察し、現代に広げました。互いの学びの権利を尊重することの重要性を示した吉本さんの作品、藤井さん、中川さん、多田さんも自らの経験と学ぶことの可能性、意味を英語で力強く示しています。

大山捨松賞の授与

今年度から「大山捨松賞」が創設されました。この賞は、大山捨松が津田梅子とともに日本初的女子留学生として渡米し、初めて海外の大学で学位を取得した女性であることにちなみ、本学で優秀な成績を修め、学位取得のために海外大学院へ進学する学生に授与されます。

なお、卒業時には進学は決定していないため、進学が確認された学生に対し、卒業翌年度に授与します^{※1}。

2023年8月18日(金)、大山捨松賞の授与式が開催され、大山捨松のひ孫である久野明子氏をお招きし、受賞者へ激励のお言葉をいただきました。初の大山捨松受賞者は、次の2名となりました。

● 2023年度受賞者^{※2}

2022年度国際関係学科卒業 藤原 日向子さん 2022年度総合政策学科卒業 杉崎 千佳さん

※1 受賞者へは賞状と、副賞として金10万円が送られます。 ※2 氏名は常用漢字にて表記



左から、久野明子氏、高橋裕子学長、杉崎千佳さん
(モニター画面左から)藤原日向子さん、大島 美穂教授

2023年度 梅子スカラシップ(学業) 受給者発表

梅子スカラシップ(学業)は2年生以上を対象とした給付奨学金です。各学科から推薦された学業・人物優秀者を対象に全学学生委員会で選考されます。受賞者は27名となりました。2023年度の授与式は、9月27日に小平キャンパスにて対面で行われ、会場では高橋学長より受給者へ証書が授与されました。なお千駄ヶ谷キャンパスにはTV会議システムを利用して中継し、証書授与は全学学生委員長小館副学長より行われました。受給者は次のとおりです(敬称略、順不同)。

学芸学部

英語英文学科

学年	氏名
2	櫛田 朱里
2	落合 唯美
3	小林 芽
3	宮原 萌
3	森山 紗彩
3	養和 千歩
4	池淵 春佳
4	日比 涼帆

国際関係学科

学年	氏名
2	大里 優月
2	佐々木 ころ
3	宮下 青生
3	滝川 優里奈
3	本田 もも香
4	遠藤 彩香
4	田子根 成奈
4	狩野 くるみ

数学科

学年	氏名
2	小泉 怜子
3	川野 真佑

情報科学科

学年	氏名
2	竹川 由佳
3	吉岡 利恵

多文化・国際協力学科

学年	氏名
2	曾禰 愛七
3	諸星 美和
4	新 万穂

総合政策学部

総合政策学科

学年	氏名
2	藤原 唯愛
3	森田 佳乃子
3	山田 佳奈
4	西野 麗華



授与式(小平キャンパス)



授与式(千駄ヶ谷キャンパス)

英語英文学科主催 第6回エッセーコンテスト Jr.受賞者発表

英語英文学科にて小・中学生を対象とした「第6回エッセーコンテスト Jr.」を開催しました。翻訳・通訳プログラム18周年にちなんでテーマは「翻訳と世界と言葉」とし、自由に書いてもらいました。国内外から日本語・英語での応募があり、大賞は2名、奨励賞は3名の方々が受賞しました。受賞者に賞状・副賞と記念品、そして参加者全員に記念品を、主任からのメッセージとともに贈呈しました。

受賞者は以下の方々です。

● 大賞

渋谷教育学園幕張中学校3年 森岡 陽さん
渋谷区立神宮前小学校5年 川本 知武さん

● 奨励賞

渋谷教育学園渋谷中学校1年 佐藤 希さん 山脇学園中学校2年 山本 留璃さん
ソウル日本人中学校3年 五味 愛琳さん

優良教育賞受賞者発表

本学では、全学SD・FD委員会を設置し、教員の教育力向上を目指したFD活動を行っています。その一環として、「授業評価に基づく教育業績の表彰に関する規程」に則り、「優良教育賞」を2015年より授与してまいりました。「優良教育賞」は、受講者数や授業形態等の条件に基づき、前年度の学生による授業評価アンケートにおいて、いくつかの質問事項に対する学生からの評価が高かった科目の担当教員を対象として、学長が表彰するものです。今年度は、下記7名に授与されました。



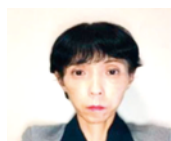
「イギリス文化概論」
伊藤 航多先生 菅 靖子先生



「ヨーロッパ文化(スペイン)(4)」
中井 博康先生



「線形代数(演習付)(3)」
永井 敦先生 立井 博子先生



「多文化社会と言語教育」
古川 敦子先生



「Critical Thinking in Content-based Reading II C」
成田 眞澄先生

文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）」の認定について



本学の「総合政策学部データサイエンス応用基礎レベルプログラム」が、2022年度の文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）」に認定されました。この制度は、数理・データサイエンス・AI を活用して課題を解決するための実践的な能力を育成することを目的として、数理・データサイエンス・AI に関する知識及び技術について体系的な教育を行うものを文部科学大臣が認定し奨励するものです。認定の有効期限は2028(令和10)年3月31日までです。

総合政策学部では、課題解決能力を培う土台として「英語」「ソーシャル・サイエンス」「データ・サイエンス」を必修とし、PBL(課題解決型学習)の手法を活用しながら、学生自ら課題を発見し、その解決に向けて調査・研究を行うといった主体的な学びを展開しています。

本プログラムでは、データを扱う際の知識や技法を修得するほか、統計、会計学、経済分析、アルゴリズムの知識を身につけ、さらにグループで実際にデータを収集・分析し発表することで理解を深める内容となっています。

総合政策学部データサイエンス応用基礎レベルプログラムの内容

	科目名	単位数	合計単位数
必修科目	データ・サイエンス入門	2	5 科目 10 単位修得
	統計Ⅰ	2	
	アルゴリズム	2	
	統計Ⅱ	2	
	経営情報システム	2	
選択必修科目	データ政策科学	2	1 科目 2 単位以上修得
	インターネット概論	2	
	プログラミング入門	2	
	経済分析	2	
	多変量解析と公的統計	2	
	アプリケーション開発	2	

- 詳細は、本学公式 web サイト (URL: <https://www.tsuda.ac.jp/learning/mdash-advanced-literacy.html>) をご覧ください。

野口啓子教授の著書が第4回中原伸之賞を受賞

英語英文学科の野口啓子教授の著書が、アメリカ学会の「第4回中原伸之賞」を受賞しました。

中原伸之賞は、同学会員の第2作以降の単著（年齢制限なし）ないしは同学会員の最初の単著（出版時50歳以上）のなかから、日本、アメリカ、あるいは世界のアメリカ研究の水準を高めることに貢献できる、深い知見と新しい視座を提供する特に優れた研究書を選び、その著者に贈呈されるものです。

<受賞著書> Harriet Beecher Stowe and Antislavery Literature: Another American Renaissance (Sairyusha, 2022)

本書はハリエット・ビーチャー・ストウの『アンクル・トムの小屋』を中心とした反奴隷制文学を一つの新しい文学ジャンルと捉え、その発展の系譜を考察したものです。筆者の博士論文を基底としている本研究は、言語文化研究所のプロジェクトメンバーで出版した共著『「アンクル・トムの小屋」を読む』がその起点となっています。以来、本書の出版までに20年近くの歳月を要しました。このたびのアメリカ学会「中原伸之賞」の受賞を大変光栄に思います。出版に至るまでに多くの人々に支えていただきましたことをこの場を借りて深く感謝申し上げます。



野口啓子教授 授賞式にて

ようこそ津田塾大学へ（留学生紹介）

2023年9月に11名の交換留学生在津田塾大学に入学しました。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

- スペルマン大学(アメリカ)
MCLENDON ANAYLA KIMBERLY
(マクレンドン アナイラ キンバリー) / 国際関係学科
- ウェスタンワシントン大学(アメリカ)
CRUZ-PEDRO BACILIA
(クルス ペドロ バシリア) / 多文化・国際協力学科
- CYセルジー・パリ大学(フランス)
KIANI MÉLODIE (キアニ メロディ) / 国際関係学科
CHRISTOL EMY SARAH (クリストル エミ サラ) / 国際関係学科
- 梨花女子大学(韓国)
LEE YEJI / 李礼地 (イ イェジ) / 国際関係学科
- 国民大学(韓国)
JUN HYOEUN / 全孝恩 (ジョン ヒョウン) / 国際関係学科
KO GAYEON / 高佳延 (コ ガヨン) / 国際関係学科
- ハインリッヒハイネ大学デュッセルドルフ(ドイツ)
WINTER JANINA (ウインター ヤニナ) / 文学研究科
- ブレーメン応用科学大学(ドイツ)
HILBERTZ KARENA ELINE (ヒルベルツ カレナ エリン) / 国際関係学科
- メトロポリタン自治大学(メキシコ)
PINTO LANDEROS LUISA CRISTINA
(ピント ランデロス ルイサ クリスティナ) / 国際関係学科
VAZQUEZ CRUZ JESSICA PAOLA
(ヴァスケス クルス ジェシカ パオラ) / 国際関係学科 (大学順)



11名の交換留学生

学生報告

■ 梅子スカラシップ(サークル活動等)受賞者丸山あかねさん海外派遣報告

▶ 総合政策学部総合政策学科 4年 丸山 あかね

昨年度、Advertising Week Asia 学生コンペティションでグランプリを受賞し、その賞品としてイギリスロンドンへの派遣旅行を頂戴しました。

Advertising Week は世界最大級のマーケティング&コミュニケーションのプレミアイベントであり、日本をはじめ多くの国々で関連イベントが開催されています。

ロンドンでは、ヨーロッパ版イベントの AWEurope にご招待頂き、世界のトップ企業を率いるビジネスマンやエンターテイナーによるセッションに参加しました。

中でも、「大きな組織を動かすリーダーとして、最も重要なことは、他のメンバーの話を聞く姿勢を常に持つことだ」という言葉が心に残り、自分の将来の指針として大切にしたいです。

今回の渡航に際し、津田塾大学からも梅子スカラシップとして、現地活動費のご支援を賜りました。コンペへの挑戦や、ロンドン派遣を通して学んだことを、大学生活に還元できるよう、引き続き意欲的に活動して参ります。



梅子スカラシップ(サークル活動等)受賞者の丸山あかねさん

■ IPA 未踏 IT 人材発掘・育成事業に丸山 礼華さんが採択されました

独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) の 未踏 IT 人材発掘・育成事業に本学理学研究科情報科学専攻 丸山 礼華さんが採択されました。プロジェクト名は「みんなで遊べる競技かるた」です。

▶ 理学研究科情報科学専攻 丸山 礼華

本プロジェクトでは、実力に差のあるプレイヤー同士でも一緒に楽しめる、バーチャルリアリティを用いた競技かるたゲームを作成します。バーチャルリアリティを用いることで視覚や聴覚の情報をプレイヤーごとに別々に設定でき、一方にのみ札にヒントを表示したり、読み上げ音声を少し早く再生したりといったプレイヤーごとに異なる支援を行えます。これにより実力の差を軽減し、互角の勝負に近づけることが可能です。また、プレイヤーに気づかれにくいゲームスキルの調整を探索し、双方のプレイヤーが遠慮なくスキルを発揮できることを目指しています。このような調整方法は、身体の特徴や言語の違いの対応への応用も期待でき、よりインクルーシブな対人ゲームの実現にも繋がります。

■ 関西大学との学生交流報告

2017年4月に包括連携協定を締結した関西大学との学生交流活動として、7月1日、2日の1泊2日の合同ワークショップを関西大学で開催しました。今回の合同ワークショップはコロナウイルス感染拡大前の2019年に本学で実施して以来、4年ぶりの開催となり、関西大学からは社会学部、総合情報学部から20名の学生、本学からは総合政策学部から22名の学生が参加し、初日は千里山キャンパス、2日目は梅田キャンパスを会場として実施されました。キャンパス見学の後のワークショップでは、開催を2年後に控えた「大阪・関西万博2025」をテーマとして、双方の大学の教員による情報提供の後に、その振興策と会場での待ち時間対策、跡地利用策について、大学、所属セミナー混成の8チームに分かれて議論を行いました。学生たちは、初日の夜には関西大学内の交流会で、関西弁も飛び交う明るい雰囲気の中で懇親を深め、翌日の午後には議論の成果をプレゼンテーション形式で発表し、審査の結果、優秀チームが表彰されました。



参加した関西大学と津田塾大学の学生と教員

■ 第64回津田塾祭を開催しました

第64回津田塾祭は、4年ぶりとなる来場者制限なしの完全対面にて2023年10月21日、22日に開催されました。当日は天候にも恵まれ、小さなお子様から高齢の方まで多くの皆様に来ていただくことができました。

外部アーティストによる中庭ステージや教員による講義や雑談を聞ける「ゆるトーク」をはじめ、メインゲストのトークショー、ファッションショー、小さなお子様楽しめる縁日など様々な企画を実施し、どれも盛り上がりを見せました。

第64回津田塾祭によせて

▶ 第64回津田塾祭実行委員会委員長 英語英文学科2年 佐藤 さやか

第64回津田塾祭は、4年ぶりに完全対面での開催でしたが、無事に終えることができました。今年度はより来場者や地域に密着した津田塾祭を作り上げることを目標に当日まで準備をしてきました。その中で多くの困難が立ちはいりましたが、実行委員全体で協力し、また企業様、教職員、地域の方、参加団体の皆様が支えてくださったことで、無事に当日を迎えることができました。心より感謝申し上げます。

ご来場いただいた方々にとって「津田塾祭に来て良かった。来年もまた来たい。」と思っていただけたら嬉しい限りです。

最後になりますが、今後とも津田塾祭へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



津田塾大学120周年記念事業を実施しています

■特別対談：村木厚子が語る『変革を担う、女性であること』

▶ 経営企画課 鈴木 美佐紀

2023 年度津田梅子記念会&ホームカミングデーの午後のプログラムとして、本学の客員教授であり、元厚生労働事務次官の村木厚子氏をお迎えし、高橋裕子学長を聞き手に特別対談「村木厚子が語る『変革を担う、女性であること』」が行われました。村木氏が中学、高校とアルバイトをされる中でいろいろと工夫して身に着けられた技、仕事を一生続けるという目標を持たれるに至った背景、公務員を目指された理由、そして折々に思い出し、判断の際の指針となった大学時代の恩師の言葉などのお話がありました。公務員になられてからは、長時間労働や人事異動による職場環境の変化のなかで、それぞれの仕事を乗り越えることによって身に付いたスキルや考え方、2 人のお子様の子育てを親族の助けなしにどのように乗り切られたか、を非常に具体的なエピソードを交えてお話しくださしました。終盤は冤罪となった事件についてのご説明とそれをどのように乗り越え、そして受け止められたかというお話になりました。村木氏が小説の中で見つけられたという言葉「人生で身に降りかかる災難を私たちは避けることはできない、しかしながら、それを自分の人生にどのように位置づけるかは私たち自身にできることである」という言葉に重みと深さを感じました。村木氏自身の生き方、考え方、これまでの歩みを伺うことにより、人生を生き抜く知恵をいただいた思いでした。



左より高橋裕子学長と村木厚子氏

■「知的交流の集い」を開催しました

2023 年 5 月 13 日(土)千駄ヶ谷キャンパスにて、ロータリーフェローズ東京と津田塾大学記念事業委員会、津田塾大学言語文化研究所の共催で第 28 回「知的交流の集い」が開催され、本学学生を含む約 60 名が参加しました。この企画は新型コロナウイルス感染症が拡大する 2019 年に予定されていましたが、延期が繰り返され、ようやく今年度開催されたものです。

午前は広瀬記念ホールにて、本学学長高橋裕子より「なぜ今津田梅子か」をテーマに講演が行われ、午後はカフェテリアにて懇親会、意見交換会が行われました。意見交換会では、ロータリー財団奨学金を受けて留学をした方々から、日本に帰国してからの経験が語られ、特に女性のキャリアには想像以上の困難が待ち受けていたこと、どのようにしたら共に歩む人たちに会えるか等の悩みが事例とともに共有され、高橋学長も自らの経験に基づく具体的なアドバイスを行い、参加者を勇気づける雰囲気会場全体に生まれました。参加者からは、「素晴らしいキャンパスの中でこの会を開催できたことはとても有意義だった」との感想が多数寄せられました。



講演会中の様子

■「女性初の外交官 山根敏子」展を開催しました

2023 年 10 月 5 日～27 日、「女性初の外交官 山根敏子」展を小平キャンパス津田梅子記念交流館山根記念ギャラリーにて開催しました。

山根敏子氏は、1941 年に本学の前身である津田英学塾を卒業、女性初の外交官として将来を嘱望されながら、1956 年に航空機事故により 34 歳という若さで急逝しました。その後、山根奨学基金が設立され、山根氏のように国際社会に貢献したいと考える女子学生を長年支援してきましたが、2022 年 3 月に解散、その残余財産が津田塾大学に寄付され、その資金により山根敏子氏の名を冠したギャラリーが開設されました。今回の企画展はそのギャラリーにて、鳥取市歴史博物館の協力のもと、写真や山根奨学基金の元奨学生からのメッセージにより、山根氏と山根奨学基金について紹介いたしました。

ギャラリートークでもお話をされた第 1 回(1961 年)奨学生の脇山怜氏からは、「各々の受給生が取り組んでおられる仕事のテーマが極めて今日性を帯びていることに驚く。国際情勢がますます混迷を深めている現代にあって、山根さんの遺志を受け継いだ彼女たちの健闘が期待される。」との言葉が寄せられました。



「女性初の外交官 山根敏子」展の様子

■ 新札発行記念シンポジウム開催のお知らせ

2024 年度からの新札発行を前に、渋沢栄一、北里柴三郎、津田梅子にゆかりの深い方々にご参集いただき、それぞれの人物が時代のなかで果たした役割についてお話しいただきます。第 1 部では東京商工会議所三村明夫名誉会頭の基調講演「渋沢栄一の遺したもの」、第 2 部で飯野正子元津田塾大学学長による講演「津田梅子の生き方」、鼎談「明治のバイオニアたちが力を注いだ女子高等教育」(島袋香子北里大学学長、井上潤渋沢史料館顧問、進行役：高橋裕子津田塾大学学長)を行います。学生や市民を中心とする一般の方々を主な対象として、広く三者の思想、功績を発信し、激動する時代を生き抜く一助とすることを目的とします。

■ 日 時：2023 年 12 月 3 日(日) 13:30～16:10

■ 場 所：小平キャンパス 特別教室

■ 入場料：無料

■ お問い合わせ：経営企画課

(TEL: 042-342-5146 E-mail: senryaku@tsuda.ac.jp)

■ 詳細は web サイトをご覧ください。

<https://www.tsuda.ac.jp/event/2023/1203.html>



創立120周年記念事業『津田梅子の小袖修復プロジェクト』

「歴史を遺す意義」

▶ 津田梅子資料室担当室長 中田 友紀

2019年度構想開始。コロナ禍の危機を乗り越えて、2021年12月より始動した『津田梅子の小袖修復プロジェクト』は、女子美術大学染織文化資源研究所の全面協力により、丸1年かけて無事に完了しました。そして2022年12月24日、なんとクリスマスイブに、本学へ帰ってきました。

久しぶりにみる小袖は、明るい朱色の生地に、繊細で細かい刺繍と染色による華やかな柄の、可愛らしい姿を取り戻していました。6歳の津田梅子が着用したという小袖は、当時もきっと明るい朱色にたくさんの花の刺繍が施されて美しく、幼い少女の心の慰めとして、想い出のよりどころとして、大切にされていたことでしょう。

長期にわたるプロジェクトに携わり、小袖を蘇らせてくれた、女子美術大学染織文化資源研究所への感謝とともに、日本刺繍の奥深い魅力に圧倒されました。

小袖は現在、厳密に温湿度管理された環境のもと、専用の収納箱の中で保管されています。江戸時代から伝わる小袖は紅花、紫根、蘇芳、藍、黄蘗といった天然の染料で彩られており、大変デリケートであるため、今後は短期間の限定公開で登場することになります。

本稿では着物の修復という未知のプロジェクトを通して見えたもの、理解したことをまとめてみました。

2023年6月24日。筆者は『津田梅子の小袖修復プロジェクト』に関わった女子美術大学の大崎綾子先生、長井まみ先生と共に大阪・国立民族学博物館へ向かいました。大崎先生の御意向で、第45回文化財保存修復学会にて、当プロジェクトの目的・意義についてポスター発表を行うためです。

この学会は、文字通り、国内外の文化財保存・保護・修復に関する研究を発表し共有するための場であり、古い漆器や土器、紙製品や遺跡・遺物の非破壊検査・分析の研究、機材のプレゼンテーション等、とても活気がありました。その中で、大崎先生による発表『津田梅子小袖修復におけるオリジナルを活かした修理方法について』は、津田梅子の知名度だけでなく、唯一の染織史料に関する発表ということもあって、大変に注目されていました。来場の方々からは多種多様な質問があり、文化財に関わる人々の熱量に終始圧倒された1日でした。

では、これほどに注目された「オリジナルを活かした修理方法」とは、どのようなものだったのでしょうか。

プロジェクト開始当時、本学としては「小袖の破損を直し、往時の姿を取り戻したい」と考えていましたが、これまで数多くの染織史料を研究してこられた大崎先生は、「仕立て直しなど、手を掛けた痕跡を残し、伝えることにこそ意義がある。とくに今回の小袖は“着用者”(津田梅子)・来歴が分かっている非常に稀な史料であり、尚の事、時の流れを保存する意義がある」昨夏、プロジェクトの中間報告のために女子美術大学染織文化資源研究所を見学させていただいたときにも、先生は工程の説明の中で何度も仰っていました。我々が思うよりも意味のあるプロジェクトなのかもしれない…遅ればせながらそのような気づきを得たことを、覚えています。

大崎先生によると、津田梅子の小袖は正絹・総紅花染めの着物で、武家女性の好む意匠であり、また布地や糸の素材分析の結果、推定2回の仕立て替えが行われているそうです。

1回目は、梅子が6歳で渡米した1871(明治4年)以前、江戸時代の大人用の小袖を子ども用に仕立て替え。2回目は1882(明治15)年帰国後で、今度は寸法を大きく仕立て替えし、その際に裏地も取り替えているもよう。その後昭和に入って幾度か裏布の修理が施されているそうです。きっと、親族の女の子達の晴れ着として受け継がれてきたのでしょう。

このように「痕跡を残す」ことで、津田梅子の遺品としての史料価値だけでなく、その家の歴史や日本の着物文化・工芸の歴史の跡が残すことになるのです。本プロジェクト最大の意義は、実はここにあったのかもしれない。

津田梅子資料室は、10/8(日)より、2023年度企画展として小袖修復プロジェクト完了報告を展示しています。またプロジェクトの総合報告展を11/13(月)より津田梅子記念交流館山根ギャラリーにて開催しています。あわせて、長い歴史を伝える「津田梅子の小袖」の期間限定展示も行います。

「歴史を遺す」プロジェクトの全容を、どうぞご覧ください。



修復された箱入りの小袖



デ・ロング夫人と女子留学生たち 左から3番目が津田梅子

■ お知らせ

創立120周年記念事業『津田梅子の小袖修復プロジェクト/完了報告』(協力:女子美術大学染織文化資源研究所)

2023年10月8日(日)~2024年9月30日(月) 於 津田梅子資料室展示スペース

2023年「津田梅子の小袖」展示

前期:10月8日(日)~13日(金) 後期:12月3日(日)~8日(金) 於 津田梅子資料室展示スペース

津田塾大学創立120周年記念事業「津田梅子の小袖修復プロジェクト」総合報告展 ~心をつなぐ手仕事~

2023年11月13日(月)~12月15日(金) 於 津田梅子記念交流館山根記念ギャラリー

小平キャンパス桜再生プロジェクトについて

▶ 管理課



グラウンド周辺の桜並木

春、小平キャンパスのグラウンド周辺ではソメイヨシノが咲き誇り、訪れる人々の目を楽しませています。卒業生のみなさまの中でも、その情景をご記憶の方は多数いらっしゃるのではないのでしょうか。

しかし、近年は、老木化に伴う開花量の減少や枝枯れ、さらには樹形崩壊の進行が続いています。これに追い打ちをかけるように、流行しているサクラ増生病に罹病したソメイヨシノが増加していることから、全体として樹勢の衰えに拍車がかかっており、往年の見事なサクラの輝きを失いつつあります。さらに、落下した場合に危険な枝も確認されていたため、安全性の確保という観点からも対応が必要な状況です。

そこで、本学ではグラウンド周辺のソメイヨシノの再生を図ることで、キャンパスの景観を保護し、未来の世代に美しいサクラの花を楽しんでもらうことを目的としたプロジェクトを立ち上げました。

プロジェクトの実施にあたっては、まず、樹木医によるサクラの生育状況の正確な把握と分析、課題の整理を目的とした樹勢調査を行い、造園の専門家のコンサルテーションを受けて再生計画を作成し、2022年度からは計画に基づいた取り組みを実行しています。

この再生計画は、7年にわたって実施され、接木によるサクラの植替えを中心に据えつつ、既存のソメイヨシノの手入れを適切に行うことにより寿命を延ばすことで、植替えまでの期間にグラウンド周辺のサクラの激減を回避する計画です。

まず、既存のソメイヨシノのうち、罹病等による被害が著しい不健全な樹木については、倒木の可能性があるため、危険性が高いものから順に年度ごとに伐採します。また、落枝により通行者に危険を及ぼす可能性がある枝の剪定を併せて行います。剪定を行った樹木に対しては、適切な時期に丁寧に施肥を行い、樹勢の回復を促すこと

により延命を図ります。これにより、グラウンド周辺の安全性が向上し、美しいサクラの景観を可能な限り維持することができます。

これらの作業と並行して、植替えのための準備を進めます。植替えに際しては、植栽樹を外部から購入する方法と、現在あるソメイヨシノの穂から接木をつくり、この接木苗を用いて植替えする方法がありますが、再生計画では後者を採用しました。これは、津田塾生たちが諸先輩方の「津田スピリット」を受け継いで成長していくことになぞらえ、新しいソメイヨシノたちも、長きにわたり小平キャンパスを見守ってきた先輩サクラのDNAを継承して次世代の景観をつくっていくことへの期待が込められています。

再生計画の完了は、2028年度を予定しております。小平キャンパスを訪れるみなさまは、グラウンド周辺の景観が例年とは少し異なっていることに気づかれるかもしれませんが、ソメイヨシノたちが新しく生まれ変わる様子を温かく見守っていただき、美しいサクラの花がキャンパスを彩り続けるための取り組みに、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



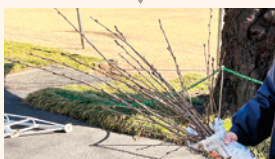
サクラの植替えイメージ

I. 接ぎ穂採取

本学では、年に4本程度ずつ、5年かけて植替える計画とされているので、接ぎ穂採取は5年程続けます。接ぎ穂全てから接木ができるわけではないので、接ぎ穂は多めに採取します。



ソメイヨシノ（親木）から、前年に伸びた一年枝を接ぎ穂として採取

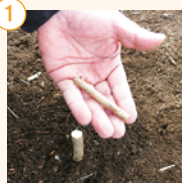


40～60cm切り取った穂

II. 接木づくり

サクラ育苗や品種管理に長けた「日本花の会」に接木によるソメイヨシノの育苗を依頼します。

①



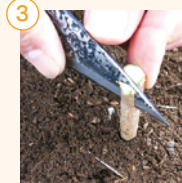
予め用意し植えた台木（左下）と穂（手のひら）

②



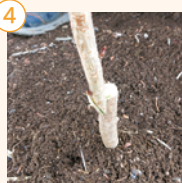
穂：台木に接する面を削り取る

③



台木：穂をさし込むところに切れ目を入れる

④



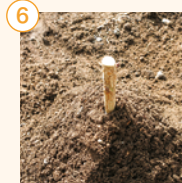
台木に穂をさし

⑤



テープを巻いて固定

⑥



台木のまわりに土を戻し完成

III. 育苗

春～夏を経て、9月に接木できているか確認し、苗圃で育てます。



接木を苗圃で育てる

3年後

IV. サクラ植栽（植替え）

苗圃で3年間育てた苗をキャンパスに運び、植えつけます

II. 接木づくり、III. 育苗の写真
日本花の会 特任研究員 和田博幸氏提供

寄付者ご芳名 (2023年6月1日から2023年9月30日現在 掲載希望者のみ)

サポート＜津田スピリット＞募金 創立120周年記念事業募金

荒木 正純 様	小田原 諒子 様	坂元 明子 様	田原 三保子 様	藤野 淑子 様	森本 和永 様	津田塾大学同窓会
今泉 明子 様	金山 英子 様	佐々木 静子 様	辻 晃子 様	松澤 妙子 様	吉永 秋子 様	石川支部 様
大野 奈津 様	日下部 隆 様	佐藤 芳樹 様	庭田 芳子 様	宮崎 代里子 様	Dror Bar-Natan 様	匿名 34 名
大森 加代子 様	小久保 志津子 様	柴田 史子 様	根本 和彦 様	桃井 実千子 様	株式会社深光園 様	
小松 友香 様	小林 梨江子 様	武井 真美子 様	廣幸 朝子 様	百瀬 広之 様		

サポート＜津田スピリット＞募金
新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急募金

匿名 7 名

津田塾大学
教育振興資金

米須 初美 様
曾我 佐保子 様

中茎 佳奈子 様
匿名 5 名

学修環境整備
(小平キャンパス)

匿名 3 名

その他

匿名 4 名

理事会・評議員会開催報告

第321回理事会 2023年7月10日

【審議事項】

1. 理事長の選任に関する件
2. 学長選考委員会の設置に関する件
3. 「学部再編等による特定成長分野への転換等支援事業」申請に関する件

【報告事項】

1. 2025年度入試からのトランスジェンダー学生（性自認による女性）の受験資格について
2. 高大連携タスクフォースについて
3. 2023年度監事監査計画について
4. その他

第322回理事会 2023年9月15日

【審議事項】

1. 学長選考に関する件

2. 小平キャンパスマスタープラン修正案に関する件

【報告事項】

1. 私立大学ガバナンス・コードの遵守状況について
2. 非常勤講師就業規則改定案について
3. 寄附行為の改正について
4. 文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」応用基礎レベル認定について
5. その他

第201回評議員会 2023年9月15日

【諮問事項】

1. 学長選任に関する件

【報告事項】

1. 小平キャンパスマスタープラン修正案について

2. 私立大学ガバナンス・コードの遵守状況について
3. 事務局長を理事にする寄附行為の改正について
4. その他

第323回理事会 2023年9月22日

【審議事項】

1. 学長選考に関する件
2. 2023年度補正予算(案)に関する件
3. 私立大学ガバナンス・コードの遵守状況に関する件

【報告事項】

1. 元非常勤講師契約不更新訴訟について
2. 創立120周年記念事業募金について
3. その他

2024年度 一般選抜情報

一般選抜	入試制度		学科		募集人員	出願期間	入学試験	合格発表	入学手続締切								
	A方式	(学)英語英文学科			85	2024年 1/4(木)～ 1/22(月)	2/5(月)	2/16(金)	2/22(木)	延納の場合の 最終手続締切日 3/25(月)							
		(学)多文化・国際協力学科			45		2/6(火) 2/7(水)										
		(学)数学科			25												
		(学)情報科学科			25												
		(学)国際関係学科			110												
		(総)総合政策学科			40												
	B方式	(学)英語英文学科			20	2024年 1/4(木)～ 2/19(月)	2/28(水)	3/7(木)	3/14(木)								
		(学)国際関係学科			20												
		(学)多文化・国際協力学科			10												
		(学)数学科			5												
		(学)情報科学科			5												
		C方式 (前期)	(学)英語英文学科	3教科型							15	2024年 1/4(木)～ 1/12(金)	共通テスト 1/13(土) ・ 1/14(日)	2/16(金)	2/22(木)		
	4教科型				15												
	(学)国際関係学科		3教科型		15												
			4教科型		15												
	(学)多文化・国際協力学科			5													
	(学)数学科			5													
	(学)情報科学科			10													
	(総)総合政策学科		3教科型		10												
	C方式 (後期)		(学)英語英文学科	5科目型			5	2024年 1/15(月)～ 3/8(金)		3/16(土)	3/25(月)						
			(総)総合政策学科	4教科型			10										
		2教科型			10												

(注) 出願期間及び入学手続締切日に〔必着〕の添書きがない場合は、締切日当日の〔消印有効〕です。

(注) 学芸学部は(学)、総合政策学部は(総)と表示しています。

最終講義のご案内

今年度定年を迎えられる教員の最終講義を、以下のとおり予定しています。在学生、卒業生問わず、ぜひご出席ください。

英語英文学科 教授 野口 啓子

テーマ：教材としてのアメリカ文学

—— 初期「誘惑小説」を中心に ——

■日 時：2024年1月24日(水) 2限 10:30~12:00

■場 所：5号館5101教室

■お申込み：不要

■お問い合わせ：学芸学部事務室 英語英文学科

(TEL: 042-342-5150 E-mail: eiji@tsuda.ac.jp)

冬期公開講座（大学院文学研究科英語教育実践研究）

「コロナ禍後に求められる英語教育とは」

コロナ禍を越えて、英語教育を取り巻くいろいろな環境の変化を経て、変わるべきもの、変わるべきでないものを、私たちは限られた条件の中で選択しながら授業を進めてきたかと思います。本講座では4日間にわたり4人の先生方に、英語教育に関わる方々に向けて、ご自分の実践されてきたご指導、ご提案などについてお話しいただきます。ぜひ奮ってご参加ください。

■対 象：現職の英語教員、英語教育について学ぶ学生・大学院生、英語教育に関心のある方

■日 程：2023年12月23日(土)、25日(月)、26日(火)、27日(水)

各日とも10:30~12:00(各日の担当者とトピックは、申込フォームをご確認ください。)

■開催形式：Zoomによるオンラインセッション

■定 員：60名(先着順に申込受付、定員になり次第締切)

■受講料：各回2,000円(津田塾大学学部生1,000円)、全日程申込の場合は7,000円

(津田塾大学専任教員・非常勤教員、津田塾大学大学院生の受講料は無料。要事前申込)

■申込方法：右記URLまたはQRコードよりお申込みください。【申込フォーム】<https://forms.gle/T3buEHmn342XnEss5>

■申込締切：2023年12月13日(水)

■お問い合わせ：文学研究科英語教育実践研究担当(E-mail: e-info@tsuda.ac.jp)



お知らせ

■在学生保護者のための大学説明会（オンライン配信）のお知らせ

在学生の保護者の皆様に大学の様子をお知らせする「在学生保護者のための大学説明会」をオンラインにて配信いたします。内容は以下を予定しています。ぜひご覧ください。

■期 間：2023年12月11日(月) 9:00より
2024年1月5日(金) 16:30まで

■内容(予定)：① 学長 高橋 裕子より

② キャリア支援について(学生生活課)

③ 留学について(国際センター)

④ 学外学修について(学外学修センター)

■方 法：津田塾大学公式 YouTubeチャンネルから限定公開

配信前に在学生へ視聴方法をTsudaNetよりご案内します。

■お問い合わせ：経営企画課

(E-mail: kouhou@tsuda.ac.jp TEL: 042-342-5113)

■クリスマス礼拝

今年度は対面形式での実施を予定しております。新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、オンデマンド形式となった場合は、大学公式Webサイトにてご案内いたします。

■日 時：2023年12月13日(水) 14:40~16:00

■場 所：津田梅子記念交流館内 岡島記念チャペル

■奨 励 者：キャサリン・ポーター氏(WEC国際宣教団：音楽宣教師)

■お問い合わせ：総務課(E-mail: soumu@tsuda.ac.jp)

■交流館プログラム「クリスマスコンサート2023」

詳細は、交流館webサイトをご覧ください。 <https://koryukan.tsuda.ac.jp/>

■日 時：2023年12月13日(水) 17:00~18:30

■場 所：津田梅子記念交流館内 岡島記念チャペル

■参加費：無料(申込要)

■お問い合わせ：経営企画課(TEL: 042-342-5146)

■申込方法：右記URLまたはQRコードよりお申込みください。【申込フォーム】<https://koryukan.tsuda.ac.jp/forum/apply/>



Tsuda Today No.129

発行日 ● 2023年11月30日

発 行 ● 津田塾大学

編集 ● 経営企画課 〒187-8577 東京都小平市津田町2-1-1

Tel. 042-342-5113 <https://www.tsuda.ac.jp/>

表紙切り絵 ● CHIKU

(種村千明・2000年卒)